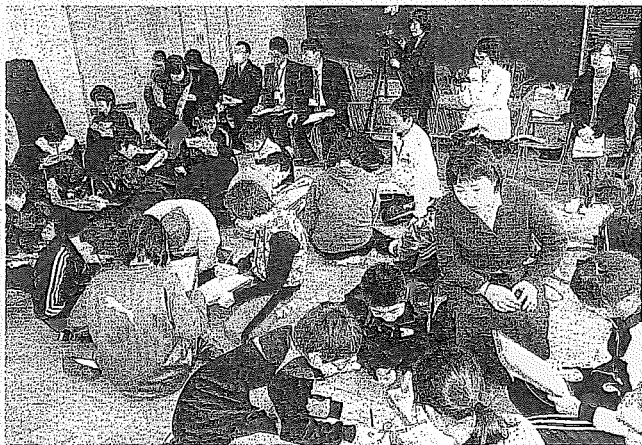


## 黒石・健康教育で公開授業

# 正しい知識 児童に浸透

### 4校で 推進事業 家族への波及期待

黒石市教委は市が今年2月に行った健康都市宣言を受け、4小中学校で市健康教育推進事業を行っている。昨年度、弘前大学大学院医学研究科と短命県(市)返上に向けた共同授業を行い先進例となった中郷小学校(坂野秀輝校長)は11日、関係者に授業を公開。児童らの感想から、健康に対する意識付けが進んでいることがうかがえ、市教委は児童生徒の健康知識が家族らに広がることを期待している。(鳴海学)



健康都市宣言を受けて実施されている健康教育推進事業。先進校の中郷小は家族への効果波及に向け参観日にも行う中郷小の公開授業

同校は昨年度、小学校教諭と大学教授が一緒に健康教育を行う全国的にも珍しい試みを初めて実施。今年度は健康都市宣言を効果あるものとするため、市教委の事業で同校と東英小、東英中、六郷中が各4回の授業を行っている。中郷小では昨年度と同様、6年生が対象で、公開授業には他校の養護教諭や市教委の担当職員らが見学に訪れた。

この日は同大医学部の高橋一平准教授が同校教諭と一緒に授業を行った。あらかじめ家族の血圧を測定した児童らが自身の値と比べ、年齢が高くなるほど血圧が高くなるのを実感することで「日本

人の3分の1は動脈硬化の原因で亡くなっている」(高橋准教授)事実と予防の大切さを理解させた。  
規則正しい生活や運動、栄養バランスが重要だと学んだ児童らは「生活改善が大事だ」と思った。「身近なところに原因があり、自分でできることがあることが分かった」などと発表し、授業内容もしっかり吸収していることを感じさせた。同校は健康づくりについて正しい知識を児童らの家族に波及させるため、参観日(27日)も健康授業を行う。  
他の3校では、中郷「モデル」をベースにした全小・中学校で子どもへ健康意識を植え付けられる環境を整える方針。

連携するとともに、教諭の指導力を高めた」と話した。市教委は来年度以降、他校には全小・中学校で子どもへ健康意識を植え付けられる環境を整える方針。